

## 京都サマープログラム 2016

Yasmin Mohammad Nadjib, University of  
Indonesia  
August 1-12, 2016

日本に来てから、日本語を使う機会が多く、会話にも聴解にもどんどん慣れていきました。日本社会に直に触れ、自分の大学で学ぶよりも日本文化を理解しやすいと思いました。日本人の友達を作り、一緒に勉強し、日本人の考え方、学び方、研究の仕方について理解が深まりました。日本に来る前とは違い、日本や日本人に対する見識が深まったと思います。

日本語以外にも、文化、社会、そして友達を作ることについても学びました。公共交通機関、Wi-Fi、自動販売機などは使い勝手が良く、便利です。京都にある施設は適切に維持されているので、生活のため、勉強のため、研究のための環境が整っていると思います。バスの運転手や食堂で働いている店員まで、皆が優しく、真面目に仕事を頑張っている姿に感動しました。自分の国でもこのような環境を作りたいと考えています。

本短期交流プログラムは京都大学で行われたサマープログラムです。このプログラムでは色々なことを学びました。日本語のクラスの中で相手を誘うこと、頼むこと、許可の仕方にかんする文法項目を簡単に学び、メールを書く方法やスピーチをする方法も教わりました。色んな話題について意見を伝える経験をしました。京大の学生に日本語を直してもらったりしました。また、京都の歴史、チンパンジーの研究、日本学校教育、日本語のウチとソトといったトピックについての講義も受講しました。学外研修として、京丹波、かやぶきの里に行く機会もありました。このプログラムを通じ、色んなことを学び、色んな経験をさせてもらって、色んな所へ行き、いろんなものを見て、たくさん人に会いました。参加できたことを本当に嬉しく思います。グループの発表では、色んな国からきた参加者と友達になり、文化交流もできました。ただ、参加者は日本語・日本文化にかんする学科の学生なので、このプログラム中に学んだことを説明し、日本の生活に関する自分の意見を発表するのも良いと思いました。

私はこのプログラムに参加し、自分の意欲についてもう一度ちゃんと考えるべきだと思いました。夢を追いかけて、日本で学びたいという強い希望を持っています。そのあと、インドネシアの子供たちが自由に夢を追いかけられるように、国の教育システムの改善に貢献したいと思います。大きな夢ですが、日本人のように頑張りたいと思います。